



Community-Reactivating Cooperator Squad

SHISO REPORT 2019

地域おこし協力隊レポート これまでこれから

IIZUKA MASAHIRO
HIGUCHI KEISUKE
KATO TOMOKO
IWAMOTO MITSUAKI
OJIKI YUKARI
NAKANO NOZOMI
KAWATA IPPEI
TANAKA KEISUKE
YAMAGUCHI YOSUKE

宍粟市

まちづくり推進部市民協働課

〒 671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

TEL : 0790-63-3123

MAIL : shiminkyodo-ka@shiso.city.lg.jp



宍粟市 × 新しい風

地域おこし協力隊とは、高齢化や人口減少が進む地方が都市部の人材を受け入れ、さまざまなミッションにチャレンジしてもらうことで、地域力の維持強化を図るものです。

宍粟市では、自然景観や地域資源を活用し地域づくりを推進するため、また、外からの目線で今まで気づかなかつた宍粟市の新たな魅力を発掘、発信しながら、移住や定住につなげることを目的とし、平成27年4月から地域おこし協力隊を採用しています。隊員はそれぞれ地域行事や観光イベントの企画・運営、農作業支援や特産物の販路拡大、森林セラピー基地の振興、小学校跡地を活用した事業、地域の情報発信など、地域ごとに特徴のある活動に取り組んでいます。

もくじ

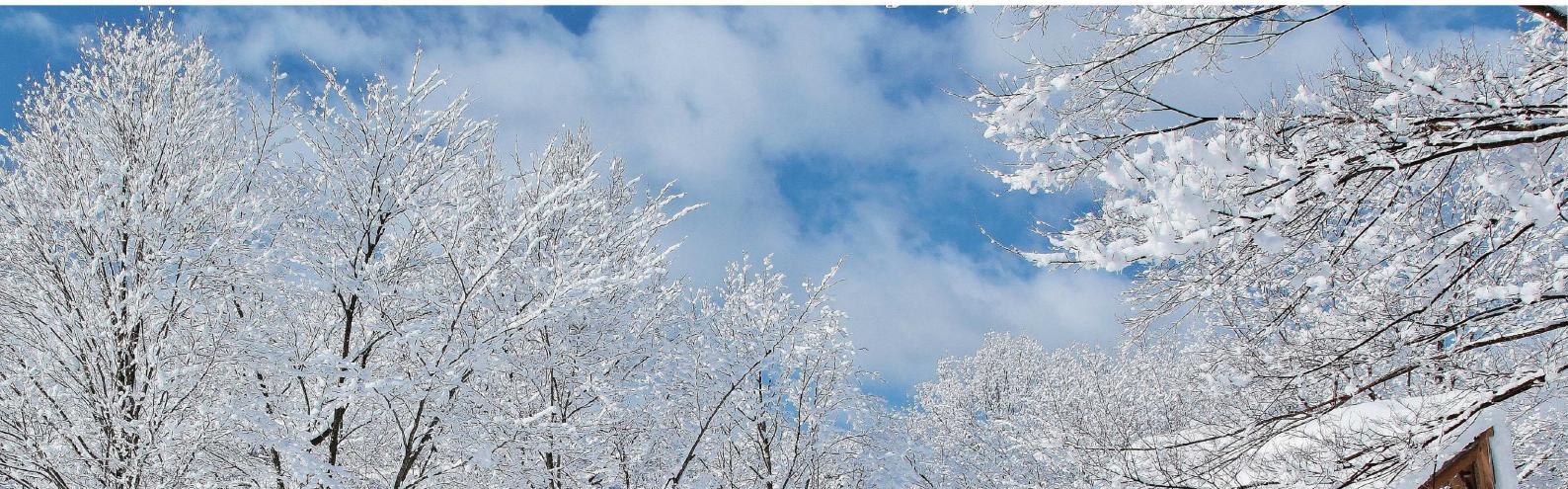
隊員紹介・インタビュー

「ローカルスタンダードに学ぶ 自然派の米づくり+村づくり」 小鹿由加里さん	2
「都市部と宍粟をつなぐオンラインのおもてなし」 中野希美さん	4
「生き物、自然、地域の人々とともに手がける地域おこし」 川田壱平さん	6
「田舎で活き活きしながら粋に生きていく」 田中啓介さん	8
「『宍粟のモノ・ヒト・コト、が集まる場所をめざして』 山口洋介さん	10

OB・OG 隊員インタビュー

「地域おこしは一生かけて」 飯塚正浩さん	12
「やりたいことが見つかる毎日」 加藤智子さん	12
「田舎の良さを伝える人に」 岩本光晃さん	13

宍粟市で地域おこし協力隊になるには	13
-------------------	----



カルスタンダードに学ぶ

「小鹿さんは田舎を分かっていない」と言われたことが地域おこし協力隊になるきっかけだったという。その当時は京都市内から京都府北部の中山間地域へ通いながら、農村活性化事業に携わっていた。その言葉を胸に、田舎で暮らしながらできる仕事を探しはじめ、穴粟と出会う。



小鹿由加里
オジカユカリ

愛知県出身 / 1977 年生まれ
2017 年 9 月着任
地域活性化支援 / 一宮町繁盛地区
京都にて舞台芸術のアートマネー
ジヤーや農村活性化事業のコー
ディネーターを経験。現在、一宮
町繁盛地区にて活動中。

小鹿隊員のとある一日

- 8:30 草刈・田んぼの見回り

13:00 地域めぐり

15:00 出荷作業・チラシづくり

19:00 企画ミーティング



▼ 竹細工の名人に質問中
繁盛で出会った素敵なおひとり。竹を切り出すところからすべてが手作業の竹細工です。魅力ある地域の人と、それに興味を持つ人をつなぐお手伝いもしています。



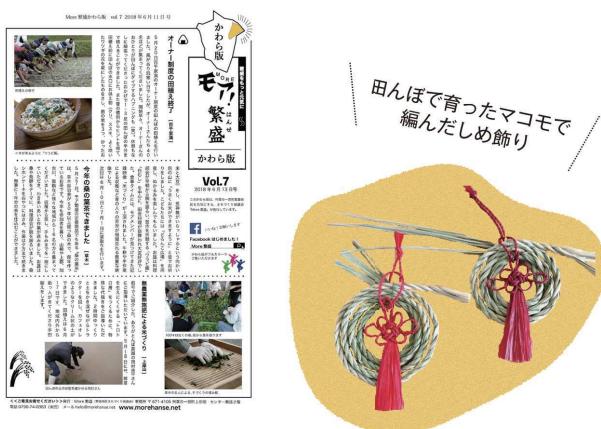
▲「かっぽう着」をユニフォームにして
地域のイベントで、繁盛でとれた特産品を販売する
ブースをだしています。桑の葉茶でおもてなし。



▼ 味よし香りよしの「人生いろいろ米」
38種類のお米を同じ田んぼで栽培するお米づくりにチャレンジ。農薬も肥料も使用しません。多様な品種が混じることで丈夫に育つといわれています。人生も然りと名付けました。ほかの繁盛米とともに、道の駅やイベントで販売しています。



A group of five people are sitting on the grass by a riverbank. From left to right: a man in a blue long-sleeved shirt and grey pants; a woman in a white long-sleeved shirt and dark pants; a man in a black cap and light-colored pants; a woman in a brown jacket and dark pants; and a woman in a light blue t-shirt. In the background, a red tractor is parked near a white van. The river flows behind them.



▲ 草刈りの合間に休息する More 繁盛のメンバーたち。強力な助っ人を迎え、農薬も肥料も使わない、繁盛のお米づくりがはじまっています。

▲企画編集デザインを担当する、かわら版。More 繁盛の活動のほか、地域の良いとこ紹介やコラムなど工夫を凝らします。



の声も上がつてはいたが、いざ始まると
それぞれのスキルや人脈、地域の組織
力を目の当たりにすることになった。

とも大きかった」と振り返る。自らが提案した減農薬栽培による「繁盛米」のオーナー制度も、そのひとつだった。地域にとつては初めての試みで、不安

「穫祭」などで活かされ、地域内外の交流の盛り上げに一役をかつた。ウエブやパッケージによるイメージづくりや情報発信が功を奏し「最近、繁盛がんばってるなと言われるんや」と地域からうれしい声も届くようになつた。

地域の想いをカタチにすることがミッショングリーンだつたが「自分のアイデアを地域にカタチにしてもらつていたこ

ミッションは、繁盛地区まちづくり協議会「More繁盛」を中心に繁盛地区での活動支援を通して地域を活性づけること。人脉も土地勘も全くない中で、地域の人の情報を頼りに、行事や集まりへ出向くところから始ました。手しごとの名人、栽培のプロ、地域の芸能を支えてきた人、商店の店主等々、地道な土台作りが今も続くかわら版の発行につながっている。イベント企画の経験は「おむすび食堂」や「秋

けている、大切な地域の価値＝ローカルスタンダードを教えてくれる」。繁盛での暮らしには、同じ土地に暮らす者同士の目線があることに気付かされた。「毎日必ず誰かと会話を交わす。挨拶程度のことでもあれば、立ち話もする。その中で人の深みや、新しい情報に出会う。その積み重ねが、この土地の信頼関係を築いているのだと思った」。できるこことを「丁寧に積み重ねてきた手応えを感じて、そんな表情の小鹿隊員であった。

都市部と宍粟をつなぐ オンラインーワンのおもてなし



▲ 親子向けアウトドア教室
火おこしや勾玉づくりの体験のほか、ご飯を今まで炊く体験も。宍粟の歴史についてのコーナーも好評でした。火おこしは子どもだけでなく大人も熱中。

▼ 地域のお祭り土万農業文化祭
もうひとつの活動拠点、「土万ふれあいの館」での秋のお祭りでお手伝いをさせていただきました。地域でとれた野菜のお披露目の場でもありこの日は特に賑わいます。



▲ ちくさもみじまつりで企画した「森の図書館」
紅葉を見上げながら読書を楽しんでもらえる空間をつくりました。ハシモックや絵本の読み聞かせもあり、子どもたちにも大好評でした。

こともある。また、しそう森林王国観光協会のSNSで観光情報を探信するほか、自身が暮らす土万地区の「土万ふれあいの館」のPRにも、地域の人たちと一緒になつて取り組んでいる。「地域と観光客の仲介役として、宍粟の魅力を観光客にうまく伝えられたときやりがいを感じます。イベントでお客さんから、宍粟に行ってみたいと言つてもらうとうれしくなります」力を入れているのは、「日本酒発祥の地・醸しの里 宍粟」をテーマに市内外いろいろなイベントで宍粟をPRすること。日本酒の勉強には手を抜かない中野隊員。宍粟市の酒蔵が仕込んでいる銘柄や味の特徴をまとめたノートが印象的だった。日本酒の試飲をしてもらつたり、日本酒発祥の庭田神社へ行くツアーにスタッフとして参加したり活動は様々だ。

「これから活動ビジョンとして、都会に住む人が宍粟に来るきっかけをつけていきたいです。地域の人は「市外の人としゃべるのが楽しい」、市外の人は「地域の人としゃべるのが楽しい」とよく聞きます。宍粟での日常に、地域外の人が来ることで非日常になるようです。イベントの中に市内外の人々が交流できる場を積極的につくっていきたいです」と話す中野隊員。おもてなしの心で都市部と宍粟をつなぐキーマンになつてくれそうだ。



▲ 野外映画祭「TAKIBI × CINEMA」
たき火にあたりながらクリスマス映画を楽しんでもらう親子向けイベント。焼きマシュマロや温かい飲み物を片手に映画を鑑賞してもらいました。市内だけでなく、市外からのお客さんもありました。

▼ 知る人ぞ知る宍粟のおしゃれスポットをめぐる女性限定ツアー「大人の女子旅」。町屋旅館や日本酒バーをコースに組み込み、たくさんのステキ女子があつまる企画となりました。写真も思い出もいっぱいでした。



▲ 東京虎ノ門で開催された宍粟牛や日本酒、鹿肉や地元の野菜など宍粟の食材が楽しめる「TABISURU STAND」のようす。宍粟のPRのために参加した際には、田舎暮らしについて多くの質問を受けましたが、皆さん興味津々のようすで、宍粟の話を聞いてもらいました。



協力隊になる前は、ホテルと旅館の両方の良さを活かした宿泊施設の客室係をしていました。施設を訪れる人、一人一人と真摯に向き合えること、楽しい旅の思い出の一助となれることにとてが、宍粟との出会いであった。市の担当者からの説明ではじめて訪れた宍粟は、観光になりうる資源がたくさんあります、廃校の宿泊施設にこだわらず、より広く宍粟市全域で活動を展開したいという思いを持つようになりました。

宍粟の印象は山、川、そして田舎だった。実際に生活してみると、それらの印象をより現実的なものとして実感するようになる。川の流れる音、自然の香り、四季のうつろいを全身で感じられる貴重な空間と、地域の方々のがとても優しく、野菜をいただきたり、夕飯をおそそ分けしてもらつたりと本当に感謝しています。よく声をかけてくださいるので、神戸から宍粟にひとりできても寂しいと思つたことはあまりありません。田舎ならではの日常生活は、中野隊員の心の支えになつていています。

協力隊としてのミッションは宍粟の観光PR。イベントの企画や運営、案内所での観光案内、ときには、東京などの大都市に出向き宍粟のPRを行う

中野 希美 ナカノ ノゾミ

神戸市出身 / 1993年生まれ
2018年4月着任
観光振興支援

大学で、宿泊業、観光業、地域おこしなどを専門に学んだのち、旅館業に就職。現場で身についたおもてなしの心得、人の接し方などを生かし、現在、宍粟の観光振興支援に奮闘中。



生き物、自然、地域の人々と

生き物、自然、地域の人々とともに手がける地域おこし

▲たかのす東小学校にオープンしたテントサイト
2018年に運動場を利用してキャンプ場がオープン。夏場はもちろん、冬場でも多くのお客さんでぎわいます。今ではリピーターとなってくれる人も増えました。

▲鷹巣活性化委員会のみなさんと校庭に芝をはり、お客様を迎える準備。地道な作業で意外と大変。

▲たかのす東小学校には本格的な石釜があり、ピザ焼きはとても人気があります。

▲冬の鷹巣でも楽しいことができる、たき火にあたる楽しさを知ってもらいたいという思いで、たき火にあたりながら行う野外映画祭を企画しました。子どもを中心たくさんの人楽しんでもらうことができました。

私は宍粟に来て初めての経験だった、「冬はもうドキドキでした。協力隊になるまであまり運転をしていなかつたのに加えて、雪道の運転となるととても不安でした。そんな洗礼も自然の由で生活する楽しみというか、醍醐味の一つかなと思うようにしています。地域の人のサポートもあり、雪道の運転もなんとか無事故で頑張っています」と笑顔の川田隊員。

ミツシヨンに取り組む中で、大切にしているのは「地域の人とともに活動する」こと。協力隊として地域を盛り上げるイベントを企画することはもちろん大切だが、「協力隊がいないところの人が一緒に活動して、地域の人の心をつかみながら、活動意欲を刺激していきたいと今後の活動ビジョンを語ってくれた。「大きなイベントをすることより、地域の皆さんと一緒に地域おこしができるようになりますが優先だと思います。それまでは地味な活動が続いてしまうかもしれないけど、まず地域の人たちの心をつかんでいく。派手な催しを企画するよりもそれが先なのかな」。現在活動する隊員の中で、一番の岩手の川田隊員、苦戦しながらも少しずつ着実に前へと進んでいく、そんなパワーを感じた。



▼ 子どもキャンプの講座
夏に開催される子どもキャンプではいろいろなアウトドアの体験をしてもらうほか、専門学校で学んだ知識を活かし、動植物や自然に関する講座も開きました。



▲千種で開かれる一大イベントの1つ、ちくさふれあいフェスタで司会進行を担当。地元イベントの企画や運営にも関わらせてもらうことがあります。



▲ オオルリ
ちくさもみじ祭りでバードウォッ칭を企画しました。千種に限らず宍粟では、人が生活しているすぐそばでも珍しい野鳥を観察できます。たくさんの野鳥に出会えることも宍粟の魅力の一つです。

川田隊員のとある一日

- 8：30 一日の流れの確認
 - 9：30 利用者の受け入れ準備
 - 12：00 キャンプ場サイト管理
 - 14：30 主催イベントの準備
 - 16：30 事務作業

川田壱平

神戸市出身 / 1997年生まれ
2018年4月着任
地域活性化支援 / 千種町鷹巣地区

動植物の専門学校にて野生動物の生態
を学ぶ。学校の授業で千種町鷹巣を訪
れたときにその自然に触れ協力隊にな
ることを決意。現在、たかのす東小学校を拠点に活動中。



田舎で遊んでいたながら

▼ ミツバチが巣に蜜を貯蔵するためにつくるミツ蓋を取り除いて、ハチミツを採取する準備をします。



▲ 巣箱のまわりを飛び交うミツバチ
養蜂でおもしろいところは、ミツバチや巣箱の中の表情が変化するところ。
時期の花でミツの風味が変わるので、毎年収穫がたのしみです。



▲ 生ハチミツとみつろう
生ハチミツは、自然界の栄養素をしっかりと摂ることができ、健康や美容にも効果的です。



地域おこし協力隊として地域に入り、都市部を離れ5年目となる田中隊員。「自分に課してあるテーマは、『田舎de粹ル』。大阪の出身なんですが、市部と田舎では交通の便が悪い、電車がない、病院が遠い、コンビニがないみたいな、田舎の不便さばかりが比較されていると思うんです。でも都会は、自然が遠い、山へ行くのに時間がかかる、ふれあえる緑や川が身近にならない。田舎ならではの良さもたくさんあるんですよ。不便さもあるけれど、都會でできない田舎ならではの生き方『田舎で生き生きしながら粹に生きていく』っていうのが、今僕が出している答えです。」今までに、田んぼ、畠、養蜂、山仕事など色々なことにチャレンジしてきた中で、田舎で生きていくための生業として養蜂を選んだのだそう。休耕田や間伐材の活用などやりたいことはたくさん。「地域の困りごとを笑顔にできるような取組みをしたいと考えています。そのためにもまずは自分の足元を固めていきたいと思っています。」と、とてもイキイキとした様子で語ってくれた。

葉が散る山々を見たとき、央粟の四季の表情が頭の中を駆け巡り「このまちで生活したい」と直感した。以前活動していた地域は植林が多く、年中表情の変わらない山々に、自然の中の不自然さを感じていたのだとか。

ることを目標としています。ハチミツを食べた人がおいしいといつてくれることがいちばんのやりがいです。また、地域活動を宍粟の人紹介し、地域活動に興味のある人たちの気づきになればと思っています」現在は山崎から一宮にかけて宍粟の南部を中心に養蜂に取り組み、生業になる規模まで少しづつ養蜂場を広げていく計画だ。宍粟で採れる百花ハチミツは芳醇な花の香りとキレの良い甘みが特徴。ハチミツには本来花粉など自然界の貴重なミネラルや酵素が含まれているが、大量生産の場合は高温で濃縮するなど、精製の過程でそれが過されてしまうこともあります。「余計なものを加えず、余計に取り除かない」手間を惜しまずじっくりと瓶詰めし、大自然の栄養を残すことでの風味豊かな宍粟の味になるそうだ。宍粟でもっとも感じたのは山の魅力。四季をしっかりと感じられる山々は目を奪われるものがあり、冬の枯れ

初めて宍粟を訪れた時、「枯れ山が真っ白に雪化粧してるみたいだつた」と話す田中隊員。滋賀県甲賀市で地域おこし協力隊として「田舎が持つ可能性」と向き合い、平成31年4月に宍粟市の協力隊として着任した。「僕はフリーミツシヨンで来てます。養蜂を生業として3年の任期終了後は定住す



▼ はが軽トラ市に出店
栄養たっぷりのハチミツの試食、販売を行いました。山口隊員の漢方茶とのコラボレーションで、「ハチミツ漢方茶ラテ」も販売。たくさんの方に味見をしてもらいました。



▲ みつろうで作る環境にやさしい工コラップ作りのワークショップを開催しました。自然が豊かな宍粟だからこそ、知ってほしいこと伝えたいことがたくさんあります。

田中啓介

タナカケイスケ

大阪府出身 / 1985 年生まれ
2019 年 4 月着任
地域活性化支援 / 企画提案型

滋賀県甲賀市で地域おこし協力隊経験あり。現在、田舎で生きるための生業として養蜂に取り組むほか、前市での協力隊経験を活かした地域活性化活動を展開中。



宍粟のモノ・ヒト・コト』が集まる場所をめざして



▲しめ飾りをつくる材料。宍粟で採れた花材も多く含まれています。



▲はが軽トラ市で生ハチミツとコラボ
田中隊員と協力して「ハチミツ漢方茶ラテ」を販売しました。生ハチミツで飲みやすく仕上げています。漢方の効能と生ハチミツの栄養価で体に優しい一杯です。



▲More 繁盛主催の秋祭りにて
活動地域である繁盛でのイベント参加。妻と漢方茶のブースを出店しました。宍粟で採れた草葉も使っている、自然のエネルギーたっぷりの漢方茶。たくさんの人に体験してもらいました。

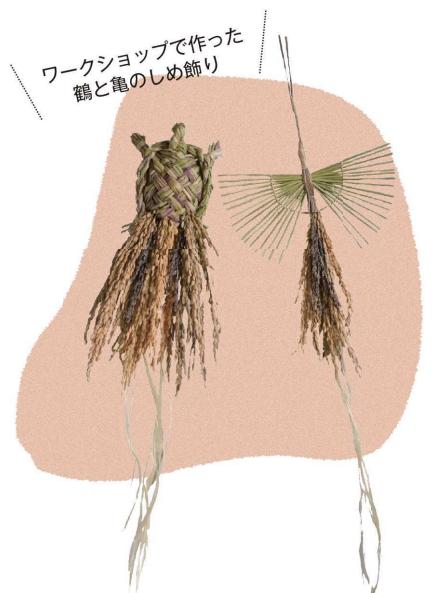


今後は、拠点となる旧繁盛幼稚園の修繕を進めながら、大阪のお店でしていたような「漢方茶レッスン」や「しめ飾りづくり」といったワークショップ、現在も生業のひとつであるパタンナーの知識を生かした「服づくり」の教室を妻の亜希さんと共に実行する予定だそう。「活動をしながら、同時に農や山にもかかわり、私たちがこの土地でなにができるのかを模索しながらできることの幅を広げていき、将来的にはお店として機能させていきたいと思っています。また、移住前の私たちのように「山里暮らし」に興味のある方へ向けての発信や、都市圏で行われるようなイベントに出店し、実際に移り住んだ私たちだからこそ伝えられる声を発信し、都市部から宍粟への移住促進につなげることができればと考えています」。経験豊富な新隊員の加入で、宍粟市の協力隊の活動もありますバラエティ豊かなものとなりそうだ。

▼姫路市にて行われたしめ飾りづくり教室
繁盛にお住いの秋武さんのお手伝いでしめ飾りづくりの講師をしました。たくさんの方が参加してください、みんなで和気あいあいワラを編みました。



▲日本酒バー sadoya さんでしめ飾りワークショップをしました。繁盛でとれた無農薬のワラを使って、参加者のみなさんと鶴と亀の二種類のしめ飾りに挑戦。約3時間かけて完成させ、みなさん達成感のある素敵な笑顔でした。



ました。とはいえたまま地域を絡めた内容にならなかったので、今後は宍粟で採取できる漢方茶の生葉や、商品となる花材を開拓していくことを考えています」。パームカルチャーや自然エネルギーといったクリーンで循環的な暮らしに注目が集まる中、自らが実践的に自然とかかわる暮らしを営み、情報を発信することで魅力を伝えたいとのこと。

旧繁盛幼稚園を拠点に様々な企画をしながら活動していく予定だ。着任間もない山口隊員だが、大阪での経験を生かして次々と市内イベントへの参画や独自のワークショップを企画。「波賀町の軽トラ市、一宮町繁盛地区の秋穫祭で漢方茶を販売し、山崎町の日本酒バー sadoya さんでしめ飾りワークショップを行い、飾りに使う花材も宍粟産のものを用意し、ワークショップの中で自然の豊かさ、人の良さ、住みやすさといった宍粟の魅力をお伝えし

活動としてはフリーーミツションで、旧繁盛幼稚園を拠点に様々な企画をしながら活動していく予定だ。着任間もない山口隊員だが、大阪での経験を生かして次々と市内イベントへの参画や独自のワークショップを企画。「波賀町の軽トラ市、一宮町繁盛地区の秋穫祭で漢方茶を販売し、山崎町の日本酒バー sadoya さんでしめ飾りワークショップを行い、飾りに使う花材も宍粟産のものを用意し、ワークショップの中で自然の豊かさ、人の良さ、住みやすさといった宍粟の魅力をお伝えしたい」と直感が、山口隊員の宍粟移住を後押ししたという。

山口 洋介 ヤマグチヨウスケ

京都府出身 / 1984年生まれ
2019年11月着任
地域活性化支援 / 企画提案型

大阪府でワークショップを開き、漢方茶や観葉植物などを扱うお店を経営するかたわら、洋服のパートナー業も手がける。一宮町の旧繁盛幼稚園を拠点に定住促進や、自然素材を生かした活動を展開中。





岩本光晃さん
Iwamoto Mitsuaki
神戸市出身 / 1979年生まれ
2019年8月協力隊卒業

田舎の良さを伝える人に

「野望を達成させたい」。卒業前にそんな言葉を口にしていた岩本さん。鷹巣活性化委員会に所属し、「たかのす東小学校」を拠点として地域おこし活動に取り組みました。

「母と祖母の出身地」ということもあります。以前から正月やお盆には宍粟に通っていました。広い田んぼで畠あげ、五右衛門風呂に薪をくべて背中のやけどに気をつけながら入る、掘りごたつや豆炭あんなど、子どものころの楽しい思い出がたくさんインプットされています。おかげで思い立つてから宍粟市の地域おこし協力隊になるうと決めたのも、それに対する家族の理解もとてもスムーズでした。3年間の任期を終えた今、ひと昔前の里山や田舎の暮らしを現代の生活と合わせながら実践しつつ、それらの魅力を自分自身の能力を交えながら、他者に伝えたい、という目的を導き出すに至りました。僕自身が古民家に住み、古き良き日本の生活を学び、教わりながら、その過程や結果を発信することを含めて実践していきたい。いろんなところから参加者を募って地域の人々を巻き込みつつ交流してもらい、楽しさや喜びを共有できる場を創りたいです。そして住んでいる人にも、外から来た人にも、「田舎って意外と面白い」と感じてもらい、僕みたいに移住してくれる人が現れてくれることが究極の理想ですね。」



前職のイベント関連会社での経験を生かし、観光イベントの企画、SNSを活用した市内飲食店やイベントの紹介など観光振興分野で活動するほか、地域のまちづくり団体の活動にも積極的に参画されました。

「今は以前から関わっていたイベント関係の仕事のほか、山崎町段の地域活性化団体「だんだんの会」の一員として地域おこし活動に関わらせてもらっています。また、任期中にご縁のあった山崎市中心市街地活性化委員会からお話をいただき、2019年に山崎町鹿沢で、地元の特産品が食べられる洋酒を中心としたバーをオープンしました。他にも兵庫県内の協力隊OBOGを中心とした活動団体「兵庫県地域おこし協力隊ネットワーク」を立ちあげ、現役の協力隊のサポートなどを行っていく予定です。お店も構えて一軒家も借りて永住する準備は整ったので、あとは家族を見つけたいなど(笑)これからも宍粟に住みながらずっとまちづくり活動に関わり続け、いつもうまくいくとは限らないけれど楽しいことができればなって思っています。自分の今後の活動が都会と宍粟を結ぶコーディネートの役割となって交流人口が増え、そうやって宍粟に関わった人が、二拠点生活、週末移住などをしながら段階的に移住してくれたらなど思います。」

飯塚正浩さん
Mizukawa Masahiro
群馬県出身 / 1979年生まれ
2018年3月協力隊卒業

宍粟市で地域おこし協力隊になるには

① 募集情報を確認

活動の内容や条件等はミッションによって異なりますので、宍粟市のホームページで募集情報を確認してください。

宍粟市では応募される前に一度お越しいただき、市担当職員の案内のもと、活動地域や取組内容についてあらかじめ確認いただくことをお薦めしています。

不明点や詳細はお気軽にお問い合わせください。

② お申込み

宍粟市役所 市民協働課宛にご応募ください。必要書類はホームページからダウンロードできます。

③ 選考・採用

書類選考と面接の結果、採用が決定します。

④ 活動開始

宍粟市に住民票を移動し、市長から委嘱を受け地域おこし協力隊として活動を開始します。

こんな活動があります

- 農林業の振興
- 特産品の販路開拓
- 移住・定住支援
- 観光イベントの企画・運営
- 森林セラピーの振興
- 学校跡地を活用した収益事業
- 発酵食品や特産品の製造・販売
- 交流カフェの運営や住民の生活支援
- その他宍粟の地域資源を活かした提案型ミッション

やりたいことが見つかる毎日

森林セラピー事業の支援を中心に、移住促進や情報発信など様々な分野で活動をされました。狩猟免許の取得など、その行動力は常にまわりを驚かせ、全国ネットのテレビ局から取材のオファーが来ることも。チャームポイントのショートヘアも彼女の人柄を物語ります。「協力隊を卒業した現在は個人事業主として独立し、赤ちゃんから高齢者まで地域住民に向けた運動指導・地元での有害鳥獣の駆除や捕獲活動・しそうチャンネルのレポーター・森林セラピーガイドなど多種多様な

加藤智子さん
Kato Tomoko
京都府出身 / 1991年生まれ
2018年8月協力隊卒業

